

# 第5回内藤ハウスCUP山梨県U-10サッカー大会

## 2023 競技会規則

### 1. 競技規則：

- ① JFA「サッカー競技規則 23/24」及び「8人制サッカー競技規則」

### 2. 競技会規定：

■以下の項目については本大会の規定を定める。

- ① 競技のフィールド：8人制サッカー競技規則による。

フィールドの大きさ：長さ（タッチライン）68m × 幅（ゴールライン）50m（各推奨）

ペナルティーエリア：12m ペナルティーマーク：8m ペナルティーアークの半径：7m

ゴールエリア：4m センターサークルの半径：7m（規定） 交代ゾーン：6m（ハーフウェーラインの中央の仮想ラインから3mずつ） テクニカルエリアを設置する。

- ② ボール：検定皮革4号球を使用する。

各チームの持ち寄りとする。ただし、準決勝以降は本部で用意する。

- ③ 競技者の数：

(ア) 試合登録人数の制限はしない。

(イ) 8人の競技者（うち1人はゴールキーパー）が試合に出場する。

(ウ) 交代要員の数：制限をしない。

(エ) 交代を行うことができる回数は制限しない、交代して退いた競技者は交代要員となり、再び出場することができる。

(オ) 試合開始時8名に満たない場合、試合は行わず0-3で敗戦したものとみなす。

(カ) 試合中に怪我等による人数不足により8名に満たなくなった場合にはそのまま続行する。

- ④ ベンチ入りするチーム役員・選手の人数：

(ア) ベンチ入りするチーム役員は2名以上3名以下とし、試合中の指示はテクニカルエリア内から1名が立って行う。

(イ) ベンチ入りするチーム役員の内1名以上がJFA D級以上のライセンスを取得していること。

(ウ) ベンチ入り選手の人数は制限しない。ベンチ入り選手全員が試合に出場できるように配慮すること。

(エ) ベンチサイドは組み合わせ表番号の小さいチームがピッチに向かって左側とする。

- ⑤ 審判員：

- (ア) 1人の主審と補助審判員の2名で行う。
- (イ) 大会1日目、2日目の審判はチーム帯同審判員が予め決められた試合を担当する。
- (ウ) 大会3日目の主審は審判部、補助審判員はチーム帯同審判が担当する。
- (エ) 大会4日目の準決勝及び決勝戦は全て審判部が担当する。
- (オ) 主審はフェアプレー精神あふれる行動やリスクある行動をとった競技者に対し積極的にグリーンカード示す。

#### ⑥ 競技者の用具・ユニフォーム：

- (ア) 本競技会に登録した1着以上のユニフォーム（シャツ、ショーツ及びソックス）を試合会場に持参し、着用しなければならない。（2着以上の持参が好ましい。）
- (イ) ユニフォームのデザイン、ロゴ等が異なっても、本競技会主催者が認める場合、主たる色が同系色であれば着用することができる（ビブス等も可）。
- (ウ) ゴールキーパーのユニフォームについて、ショーツ、ソックスはフィールドプレーヤーと同系色でも良いものとする。
- (エ) 主審は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとに、その試合においていずれのチームがビブス等を着用することを決定する。
- (オ) ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。
- (カ) アンダーシャツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。
- (キ) アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。

#### ⑦ 試合時間：

- (ア) 試合時間は30分（前後半各15分）とする。
- (イ) ハーフタイムのインターバルは、選手の休息5分間を確保する。
- (ウ) 規定の試合時間内に勝敗が決しない場合
  - ・大会3日目の試合は、延長戦を行わずペナルティーキック方式（3名）により勝利チームを決定する。
  - ・大会4日目準決勝以降は10分間（前後半各5分）の延長戦を行い、なお決しない場合はペナルティーキック方式（3名）により勝利チームを決定する。
- (エ) 延長戦に入る前のインターバル：原則5分間
- (オ) ペナルティーキック方式に入る前のインターバル：原則1分間
- (カ) キックオフから直接相手のゴールに入った場合は、相手のゴールキックで再開する。

#### ⑧ 交代の手続き：

- (ア) 交代して退く競技者は、交代ゾーンからフィールドの外に出る。ただし、交代して退くゴールキーパーは、境界線の最も近い地点からフィールドの外に出なければならない。

- (イ) 交代要員は、交代ゾーンからフィールドに入り、競技者となる。
- (ウ) 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行うことができる。
- (エ) 交代は、主審の承認を得る必要はない。
- (オ) ゴールキーパーは事前に主審に通知した上で、試合の停止中に入れ替わることができる。
- (カ) 交代で退く競技者が負傷している場合は、主審の承認を得た上でどこからフィールドを離れてもよい。
- (キ) 交代カードは使用せずピブスお受け渡しによって行う。

#### ⑨ 負傷者の対応：

- (ア) 主審が認めた場合のみ、最大 2 名ピッチへの入場を許可される。

### 3. 懲 罰：

- ① 同一試合で警告を 2 回受けた選手は、次の 1 試合に出場できない。
- ② 退場を命じられた選手は、次の 1 試合に出場できない。審判報告書を使用して次の試合に申し送る。
- ③ 競技者が退場を命じられた場合は、その競技者のチームは交代要員の中から競技者を補充することができる。主審は競技者が補充されようとしている間は、試合を停止する。
- ④ 退場を命じられた選手及び警告を 2 回受けた選手は、当該チームエントリー票の「出場停止理由」欄に日付と理由を記載すること。また、「警告」についても同欄に日付と理由を記載し累積がエントリー票で確認できるようすること。
- ⑤ ベンチ入り役員の数及び指導者資格に関し競技会規則に反した場合は 0-3 の敗戦とする。
- ⑥ 退場を命じられたチーム役員は、次の 1 試合はベンチに入ることは出来ない。その後の処置については大会規律委員会で決定する。
- ⑦ 大会期間中警告を 2 回受けたチーム役員は、次の 1 試合はベンチに入ることは出来ない。その後の処置については大会規律委員会で決定する。
- ⑧ 本大会は（公財）日本サッカー協会規約規程「第 12 章懲罰」に則り、大会規律委員会を設ける。〔基本規定第 227 条〕
- ⑨ 大会規律委員長は 4 種委員会委員長とし、委員については委員長が決定する。

### 4. 競技規則の適用誤りについて：

- ① 審判による競技規則適用ミスがあった場合も原則として、当該適用の結果は有効なものとなされ、試合結果には影響を与えないものとする。なお、再試合は大会運営上および大会/試合に関わる方々の立場、状況など様々な観点から現実的ではないため、審判の決定を最終とする。（JFA 競技規則第 27 条より）

### 5. その他：

- ① 本競技会規則及び記載事項にない事例に関しては、大会規律委員会にて決定する。

